

中国・四国地区における献血推進活動

- ・平成27年度に取り組んだ献血推進事業
- ・平成28年度に取組予定の献血推進事業

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （鳥取県）「愛の血液助け合い運動月間 高校生街頭献血キャンペーン」

【1目的】 県教育委員会、県赤十字血液センター及び各市町村と連携し、高校生ボランティアの協力を得て、県下2地区において街頭献血キャンペーンを実施し、広く献血への理解と協力を求める。また、献血可能年齢に達する高校生が、献血学習及び街頭での献血呼びかけボランティアの体験を通して、献血の重要性及び必要性について理解を深める。

【2実施日・場所】
（東部地区は悪天候につき中止）

項 目	中部地区	西部地区
日 時	7月20日（月・祝）	7月25日（土）
場 所	パープルタウンほか （倉吉市山根557-1）	イオンモール日吉津（日吉津村日吉津1160-1）

【3参加者】 高校生ボランティア：36人 引率教諭、県・市担当者、血液センター、日赤県支部

【4実施手順】 ○献血研修（1.5h）血液の役割と献血の必要性、献血血液の使用状況など
○街頭献血協力呼びかけ（約2h） ○意見交換会（0.5h）

【5効果（評価）】 これまで献血を身近な問題として捉えていなかった高校生も、献血の重要性について理解を深めるとともに、高校生による献血呼びかけにより、広く県民の献血への関心を高め、献血者確保に寄与した。

【6今後の対応方針】 引き続き本事業を継続し、これまで参加のない高校への働きかけなどに努める。

【7予算額】 既存予算977千円の範囲で実施



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （鳥取県）ガイナーレ×けんけつ「献血応援キャンペーン」

【1目的】 県内のプロサッカーチームであるガイナーレ鳥取の試合開催に合わせて、鳥取大学献血推進サークル「白うさぎ」と連携し、献血を呼びかけることで、献血への関心を高め、献血者の確保を図る。

【2内容】

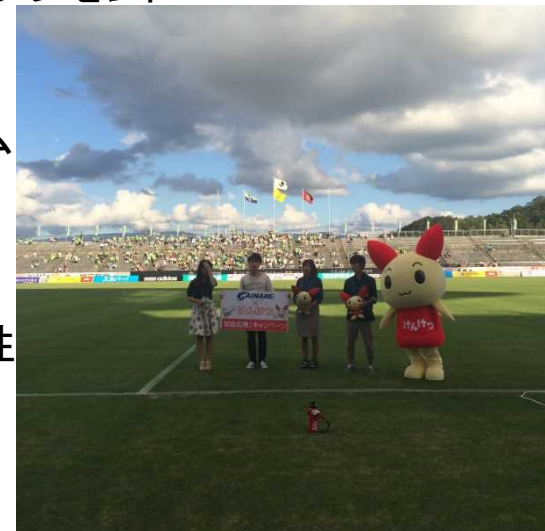
- ・事前に、ガイナーレ、白うさぎ、血液センターのホームページ及びFacebook等で試合開催情報と併せて献血キャンペーンの実施について広報
また、YouTubeを利用してガイナーレの選手が献血を呼びかけた。
- ・白うさぎ＆血液センターによる特設ブース設置
鳥取・島根の学生ボランティアの献血推進活動を紹介するパネル展示のほか、若年層を中心に来場者に献血協力を呼びかけた。
- ・献血協力者先着30名にオリジナルクッションシートプレゼント
- ・抽選で1名に全選手、監督等のサイン入りユニフォームプレゼント
(移動採血車配置)

【3実施日・場所】 平成27年9月13日(日) とりぎんバードスタジアム

【4対象者】 試合観戦者

【5効果など】 県民に人気のあるプロサッカー選手が、献血の重要性必要性を訴えることで、献血への関心が高まった。

【6予算額】 既存予算の範囲内で対応



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (鳥取県)大学生ボランティアの組織化の推進

- 【1目的】 鳥取県では、10代の献血率の向上が課題であるが、400ml献血の推進等により高校生の献血協力を得ることがなかなか難しい状況であることから、大学生を対象とした献血推進体制を強化する。
- 【2予定内容】 県内の大学で、まだボランティア組織が確立していない2大学での学生ボランティアの組織化を推進する。
- 【3実施手順】 学生担当課と連携を図り、学内献血呼びかけボランティアを募集する。
既存の献血推進サークル部員と合同呼びかけ体験や研修を実施することにより、各大学に献血ボランティア組織を確立する。
- 【4目標(効果)】 大学生ボランティア組織が確立することで、学内での献血理解の促進、協力機運の高揚による学内献血の積極的な受入れ、献血者確保が期待できる。
また、各大学のボランティア組織の交流・連携などによる献血推進活動の活性化が図れる。
- 【5予算額】 既存予算の範囲内で対応

鳥取大学学祭での
献血呼びかけ風景



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (島根県)「なるほど!献血教室」

将来の献血者となり輸血医療を支えてもらえるよう、小学校を対象とした「なるほど!献血教室」を開催

【1目的】

小学生及び保護者に献血への理解を深めてもらうとともに、血液センター及び献血バスに親しみを持ってもらい、将来の献血者の確保に繋げる。

【2内容】

ビデオ「ありがとう!って いっぱい言わせて」の鑑賞、スライドによる学習、血液センター内及び献血バス・緊急車両の見学、〇×クイズ、記念撮影

【3実施日・場所】

- ①平成27年8月8日(土)～16日(日)、5日間
島根県赤十字血液センター(東部地区)
- ②平成27年8月9日(日)
島根県トラック協会西部研修会館(西部地区)

【4対象者】

県内の小学校5・6年生及びその保護者



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （島根県）「なるほど!献血教室」

【5実施手順】

- 5月 県・市町村教育委員会へ後援依頼
5・6年生の生徒数を把握
- 6月 参加者募集チラシ(申込書)の作成
各小学校へのチラシ配布
- 7月 郵送又はFAXでの申込みの受付
参加日決定ハガキの送付
ニュースリリース
- 8月 なるほど!献血教室の開催



【6実施に際して苦労したこと】

- ・夏休み期間中は、小学生向けのイベントが多数企画されることもあり、参加者の確保が難しい。
- ・保護者の都合による急なキャンセルが発生する。

【7予算額】

約 28.5万円
(内訳:印刷費19.3万円、記念品5.6万円
室料2.4万円通信料1万円、事務費0.2万円)



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （島根県）「なるほど!献血教室」

【8来場者】

5日間計で101人が参加（平成26年度実績:98人）

【9効果（評価）】

- ・東部地区に加え、西部地区においても初めて開催したところ、参加者に好評であった。
- ・アンケート結果によると、将来献血すると回答した小学生は81.7%、今後機会があれば献血すると答えた保護者は66.7%であり、献血への動機付けの機会として一定の効果があつた。また、「献血は人と人とをつなぐことであり、自分が献血すると人を助けることができることが分かった」、「16歳から献血ができることを知らなかった」、「血液製剤に有効期間があることを初めて知った」等の意見もあり、献血への理解を深めていただく機会にもなったと考えられる。

【10改善点】

- ・募集の周知期間について現在3週間程度であるが、募集期間を延長し、また、当日の申込者も受け入れできるように配慮したい。

【11今後の課題】

- ・7月中の開催を希望する親子が多いが、7月は「愛の血液助け合い運動月間」のイベント開催に加えて地域・街頭献血の日数も多く、スタッフの確保が困難。
- ・実際の献血の様子を見て気分が悪くなった児童がいたため、事前に見学コースの希望の確認が必要。（説明用スライドも写真からイラストに差し替えて対応）

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （島根県）「高校生献血セミナーの開催」

若年層の献血を推進するため、高校での献血セミナーを開催

【1目的】

高校生に今後の献血の動機付けやきっかけを与えるため、また、将来に渡って献血協力者となってもらうため、高校へ出向いて献血セミナーを開催する。また、理解を深めてもらったうえで献血バスを配車し、献血者の増加に繋げる。

【2予定内容】

- ・スライドにより献血の現状と重要性等を説明
- ・輸血を受けた患者さんに関する映像の放映
- ・献血に関するパンフレットの配布 計30～60分程度

【3実施日・場所(予定)】

希望する高校との調整により実施日を決定し、各高校、JRC協議会などにおいて開催

【4対象者】

県内の高校生

【5昨年度実績】

9回開催(うち1回はJRC協議会)



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （島根県）「高校生献血セミナーの開催」

【6実施手順】

4月 県立高校校長会議・私立高校校長会議にて献血セミナーの受け入れを依頼
通年 希望する高校と内容等を打合せのうえ、献血セミナーを開催
献血セミナー開催時に学校献血及び近隣献血会場での献血を周知
未実施校を訪問し、献血セミナーの受け入れを依頼
JRC顧問、保健教諭等を通じた依頼

【7予算額】

15万円（内訳：記念品12万円、資料作成費3万円）

【8目標（効果）】

10校以上での開催

【9実施に向けた課題】

- ・開催希望時期が文化祭の時期や卒業前に集中するため、試験終了後の開催等についても各高校の理解を得ていく。
- ・冬期はインフルエンザや荒天からセミナーが中止となり、直後に採血車を配車した際の献血参加数に影響が出ることがある。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】

(岡山県)ライオンズクラブと赤十字血液センターとの連携協定

【1目的】

ライオンズクラブと赤十字血液センターが相互に連携することで、献血推進活動が一層地域と結びつき、活発になる。そして、厚生労働省が掲げた「献血推進に係る新たな中期目標～献血推進2020～」を主軸とした献血推進活動を実現する。

【2内容】

「ライオンズクラブ国際協会336-B地区」と「赤十字血液センター」との協定締結式、献血協力団体によるアトラクションを実施

【3実施日・場所】・・・平成27年7月3日(金)・イオンモール岡山1階 未来スクエア

【4対象者】

ライオンズクラブ国際協会336-B地区、岡山県・鳥取県赤十字血液センター、イオン来場者

【5実施手順】

1. 血液センター内部、ライオンズ336-B地区内の血液センターとの調整
2. 次期ガバナー、キャビネット事務局との調整
3. 本社、ブロック、県、支部との調整
4. 式典会場(イオンモール岡山)との調整、マスコミ広報等



【6実施に際して苦労したこと】標記協定は前例がないため、全てにおいてゼロからの企画が必要

【7予算額】・・・30万円:会場費等(県・支部・センター:20万円、ライオンズクラブ10万円)

【8来場者】・・・約1,000人

【9効果(評価)】・・・連携協定締結により、多くのクラブが献血を主要アクティビティと位置づけ、より一層の献血協力が得られるようになり、ライオンズクラブ国際協会336-B地区内のほとんどのクラブから協力が得られた(70/75)

【10改善点(又は問題点又は反省点)】・・・特筆事項なし

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】・・・ライオンズクラブとの関係維持

【12 その他】平成27年度献血協力人数7,939人

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （岡山県）赤十字出前講座「献血セミナー」の実施

【1目的】

県民に、もっと献血を知ってもらい、身近に感じてもらおうと、出前講座として『献血セミナー』を行っている。輸血や献血の重要性について、わかりやすく学び、献血をはじめとする赤十字諸活動への理解及び実践等、ボランティア思想を普及することを目的としている。

【2内容】

献血の必要性、献血の意義について、DVD放映

【3実施日場所】

平成27年4月～平成28年3月末、県内

【4対象者】

1. ライオンズクラブ国際協会336-B地区
2. 国際ロータリー第2690地区
3. 県内高校・大学・専門学校等

【5実施手順】

申請書を受け実施調整。

高校へは教育委員会を通じ、意向アンケートを実施。

【6実施に際して苦労したこと】

日程調整、職員派遣の調整

【7予算額】

・・・140万円（セミナー参加記念品経費）

【8実施対象者】

・・・8,664人（116回）

【9効果（評価）】

・・・献血セミナーの実施回数（年間）を増加させることで献血の周知度が上がり、献血に係る新たな中期目標「献血推進2020」の目標達成ができる。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】

・・・新たな実施団体の確保にかかる啓発活動

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】

献血の大切さが分かりやすくより魅力ある講座の実施



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (岡山県)献血ルームの献血推進

【1目的】・・・固定施設の献血実施計画達成

【2予定内容】・・・対前年比:献血ルームうらら110.2%、献血ルームももたろう104.6%

【3実施日・場所(予定)】・・・通年、献血ルームうらら・献血ルームももたろう

【4対象者】・・・岡山県民

【5昨年度実績】・・・献血者数:献血ルームうらら13,940人、献血ルームももたろう22,402人

【6実施手順】・・・

- ①血液センターの愛称を「献血ルームうらら」とし、県民への周知度をあげる
- ②献血ルームでのキャンペーンの充実を図り献血参加へのきっかけを作る
- ③ライオンズクラブ、ロータリークラブ、企業、各種団体の献血WEEKの充実
- ④企業等からの送迎、献血招待状活用
- ⑤周辺大学等への渉外、部活動・サークルへの協力依頼等
- ⑥メール、はがき、電話依頼
- ⑦受付作成の不足時ドナーリストの作成等

【7予算額】・・・823,200円(キャンペーン用チラシ、処遇品等)

【8目標(効果)】・・・献血者数:献血ルームうらら15,355人、献血ルームももたろう23,432人

【9実施に向けた課題】・・・献血ルームうららでは400mL献血を153.2%、PPPを141.5%
献血ルームももたろうではPPPを191.5%にする(対前年比)

岡山県赤十字血液センター愛称が
献血ルームうららに決定しました!

献血ルームうらら(血液センター)
13:00～17:00

献血ルームももたろう
14:00～18:00

献血ルームうららに決定しました!
4/1(金)～6/30(金)
平日午後限定キャンペーン

献血ルームうらら(血液センター)のイベント:
1. 献血ルームうらら 月鬼クッキープレゼント
2. リラクゼーション
3. 水 週替わりイベント
4. タロット占い
5. 第1-5 1A109 (2A109) 占い
6. 第2-4 手相占い (実演)
7. 第3 抹茶サービス
8. 木 ハーゲンダッツアイス

献血ルームももたろうのイベント:
1. 月 リラクゼーション
2. 水 鉢花プレゼント
3. プラネタリウム無料観覧チケットプレゼント
4. チケット配布
5. 平塚 28年4月～29年3月末
6. 有期 28年4月～29年4月末

献血ルームうらら(血液センター)の受付時間:
献血ルームうらら(血液センター) 9:00～12:00、13:00～17:00
献血ルームももたろう 9:00～11:00、13:00～18:00

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (岡山県)献血推進動画の作成 みんなのおかやま犬 ～献血に行こう～編



【1目的】・・・若者へ向けて、効果的に県政情報を発信するため、県政の重要な施策や課題などをテーマに、親しみやすいアニメ「みんなのおかやま犬」による広報動画を制作し、配信する。(年間5本制作のうち、1本で、「献血」の啓発動画を作成)

【2予定内容】・・・県政広報アニメの制作及びインターネット配信

【3実施日・場所(予定)】・・・H28.7.1 You Tubeで配信

H28.7.1愛の血液助け合い運動月間初日事業
(献血ルームももたろう前で動画の公開
及びキャラクターを活用したチラシの配布)

H28.8.8献血感謝のつどい(開会前に動画を映写)

【4対象者】・・・主に若年層をターゲット

【5昨年度実績】・・・なし

【6実施手順】・・・①岡山県学生献血推進連盟との意見交換等
②動画PRチラシの作成

【7予算額】・・・5,761千円(うち、献血編制作・広報費約800千円)

【8目標(効果)】・・・インターネット動画視聴回数 約2万回

【9実施に向けた課題】・・・若年層の意見を取り入れた動画とする
若年層を中心とした県民への周知



みんなのおかやま犬

検索



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (広島県)「若年層に対する献血推進事業」

- 【1目的】 献血離れの傾向がある10代、20代の若年層を主に、献血の状況等を理解してもらい、献血推進のため知事の呼びかけメッセージを作成するとともに、献血基準を下回り献血できなかった人に対し、献血に関する情報や健康維持に向けた食事に関する知識を普及することで、複数回献血や若者の献血への参加を促す。これらのパンフレットをクリアファイルとセットにすることで、家庭に持ち帰った際、保護者の目にも触れ、さらに幅広い世代への啓発効果を期待する。
- 【2内容】 知事呼びかけメッセージ、血液ヘモグロビン量不足の方への栄養アドバイス、広島県の献血状況として若年層の献血者状況、献血の基準と間隔、献血ルームの案内等を載せたパンフレット
- 【3発送日】 平成27年10月26日
- 【4対象者】 県内の高校3年生他

【5実施方法】 県内各高等学校(県立、市立、私立、特別支援学校)へ配布し、関係機関へ周知する。

【6苦労した点】 献血に関心をもってもらえる内容にし、分かりやすく明るいイメージにする事

【7予算額】 パンフレット印刷費 194,400円(30,000部)
クリアファイル印刷費 664,200円(30,000枚)

【8来場者】 —

【9効果】 18歳から男女とも全ての種類の献血が可能であるため、学校で配布することにより、ほぼすべての18歳に確実に行き渡るとともに、幅広い世代への啓発効果も期待できる。
また、献血の必要性、将来の血液不足の状況を知ってもらい、献血参加の促進を期待する。

【10改善点】 献血に来られた方の約一割の方が比重不足により献血ができない状況になっているので、貧血の予防と改善についての項目を増やす。

【11今後の課題】 配布後の効果や実績を検証しにくい、献血に興味を持て理解を得るよう内容・デザインを工夫し、より多くの方に献血に繋がるよう啓発活動に取り組みたい。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (広島県)「夏休み血液センター見学会『なるほど献血教室』」1/3

「なるほど献血教室」は若年層、特に小学生高学年を主たる対象として、血液のはたらきを知るとともに、血液センターの役割や献血に興味をもたせることを目的として、毎年7月下旬から8月上旬に実施している。

【1目的】 深刻化する若年層献血者減少対策としての将来的献血者の育成と献血思想の普及。

【2内容】 映像学習 3D映像などで血液のこと、献血のことを学ぶ。
血液センター見学 血液を検査・調製するところ、緊急車・献血バスなどを見学。
クイズ 映像や見学で学習した内容を、楽しい○×クイズで確認。
質問コーナー・感想文

【3実施日・場所】 平成27年7月23日(木)～8月5日(水) 土日と7月30日は休み。

1回目 9:30～11:30 2回目 13:00～15:00

中四国ブロック赤十字血液センター・広島県赤十字血液センター合同社屋

1階 赤十字プラザ 3階・5階 製剤・検査工程見学コース

【4対象者】 主として広島県内の小学校4～6年生

【5実施手順】 4月 概要を決定し、広島市に共催依頼、県教委市教委に後援依頼

5月 広島市の広報誌に募集記事の掲載を依頼

7月 広報チラシを作成し、教育委員会を通じて県内全小学校と広島市内および
近隣町の小学4～5年全員にチラシを配付して参加者を募集
広島県赤十字血液センターのHP、FB複数回メール会員等にて参加者募集

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (広島県)「夏休み血液センター見学会『なるほど献血教室』」2/3

【6実施に際して苦労したこと】

どのような日程であればより多くの小学生に参加してもらえるか。どのような内容であれば記憶に残るか、献血について実感してもらえるかという視点から内容について検討を重ねた。

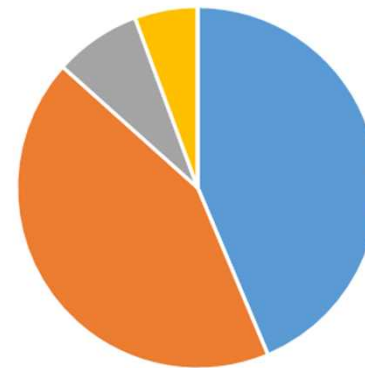
【7予算額】 なし(広島県赤十字血液センターの予算にて実施)

経費: 約14.2万円(内訳: チラシ作成64,800円 参加記念品31,200円
参加者処遇品34,224円 チラシ送料等11,600円)

【8来場者】 9日間 合計 515名(児童〈幼児含〉: 312名、保護者: 203名)

【9効果(評価)】 参加者によるアンケートでは「将来献血をしようと思いますか?」の設問に対し、80%以上が「したい」「ちょっとしたい」と回答。また保護者からも献血に対する理解が深まったとの回答を多く得ていることから、献血思想普及に一定以上の効果があったと思われる。

◇大きくなったら献血をしようと思いますか?



■ 1.思う ■ 2.ちょっと思う ■ 3.あまり思わない ■ 4.思わない ■ 0.無回答

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (広島県)「夏休み血液センター見学会『なるほど献血教室』」3/3

【10改善点(又は問題点又は反省点)】広島市の広報誌掲載の締め切りが早まったため、27年度は掲載されなかった。次年度は締め切りに対応し、十分な事前広報を行いたい。
また、小学校の夏休み開始後も臨時休校等の代替授業で序盤の参加者が若干伸び悩んだ。これについても開始時期を十分検討して計画したい。
対応に当たるスタッフの人的限界により開催日が限定されているので、日常業務と平行して長期間開催できるようボランティアスタッフの更なる育成も検討したい。

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】

28年度の実施に当たっては、より多くの層の参加を促す為、従来対応していなかった土曜日もしくは日曜日に開催することを検討したい。
また、学習要領では小学6年生で血液について学習するので、主たる対象を小学4～5年生から5～6年生とすることが将来的献血者の育成により寄与できると考えている。
また、説明ボランティアについても早期に育成して開催期間には独り立ちできるレベルでの研修・育成プログラムを作成することも計画したい。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (広島県)「広島県献血推進ポスター募集」1/2

- 【1目的】 少子高齢化の進行に伴い、輸血用血液を必要とする高齢者の方の割合が増える一方、献血をする若い世代の割合が減少傾向にあるため、若年層に献血への関心を高め推進を図る。
- 【2内容】 県内の中学校、高等学校及び特別支援学校の生徒から、献血推進に関するポスターのデザインを募集し、優秀と認められた作品を、愛の血液助け合い運動月間の行事「広島県献血推進功労者等表彰伝達式」で表彰する。また、入賞作品は、県内各地での展示のほか、パンフレット等のポスター以外の啓発資材にも使用する。
(最優秀賞1点、優秀賞5点、佳作10点選出)
- 【3応募期限】 平成27年6月12日(金)〆切 (4月初旬から募集)
- 【4応募資格】 広島県内または広島県内に在住の中学校、高等学校及び特別支援学校(中学部・高等部)の生徒。
- 【5実施手順】 4月初旬に広島県内の中学校、高等学校及び特別支援学校に依頼し、関係団体等に通知をする。
また、広島県のホームページにも掲載。
応募締切後は広島県、日本赤十字広島県支部、広島県赤十字血液センターの関係者が厳正な審査を行い、入賞者については学校単位の応募は学校長に、個人の応募は本人に通知する。
また、平成27年度広島県献血推進功労者等表彰伝達式(平成27年7月28日開催)にて表彰。
- 【6苦労した点】 多くの学生、学校から応募をしてもらう事。また、広報用募集ポスターを献血に興味を持ってもらえるようなデザインにする事。
- 【7予算額】 約347,000円(うち、約310,000円は日赤県支部及び血液センターの協力を得ている)
- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 【県】 | 【県支部・血液C】 |
| ・募集用広報ポスター印刷費1,500枚 32,400円 | ・優秀賞・佳作賞状 15枚 約26,000円 |
| ・最優秀賞賞状 1枚 4,320円 | ・参加賞・副賞(図書カード) 約278,000円 |
| | ・丸筒他 約6,000円 |

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (広島県)「広島県献血推進ポスター募集」2/2

【8応募数】 441名(中学354名, 高校87名)

【9効 果】 応募数について, 新年度早々に学校等に周知したため授業に取り入れられ, 増加につながった可能性がある。また, 応募数が増えたことにより, 広く若年層への啓発効果に期待ができる。

【10改善点】 応募数が増えることが, 中高生の献血を知る第一歩になるので, 更なる応募数を募るため, 広報活動を検討する必要がある。

【11今後の課題】 作品応募だけに終わらず, さらに献血について理解を深めるため, 献血に繋がるよう啓発活動に取り組みたい。

平成27年度最優秀作品



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (広島県)「はたちの献血」キャンペーン用チラシ作成

【1目的】 はたちの献血キャンペーンに際し、市町が実施する成人式の式典等において、チラシを新成人等に配布し、献血の普及啓発を図る。

【2内容】 まひろちゃんのお父さんの手記、血液製剤の使われ方、献血の問題、献血者数の将来推計、献血ルームの紹介、広島県赤十字血液センターのアプリ紹介

【3配布日】 平成27年12月10日(各市町、関係機関)

【4対象者】 県内の主に新成人

【5実施方法】 県内各市町及び関係機関へ配布し、周知する。

【6苦労した点】 目につく明るいデザインにし、献血に興味を持ってもらえる内容にすること。

【7予算額】 印刷費 49,800円(20,000枚)

【8来場者】 —

【9効果】 市町が実施する成人式の式典等までに配布するので、式典等で新成人に行き渡るとともに、献血の状況を理解してもらい啓発効果が期待できる。

【10問題点】 配布後の効果や実績が検証しにくい。

【11今後の課題】 より有効な献血への誘導方法を検討したい。



【平成28年度に実施予定の献血推進事業】 （広島県）「若年層に対する献血推進事業」

【1目的】 献血離れの傾向がある10代、20代の若年層を主に、献血の状況等を理解してもらい、献血推進のため知事の呼びかけメッセージを作成するとともに、献血基準を下回り献血できなかった人に対し、献血に関する情報や健康維持に向けた食事に関する知識を普及することで、複数回献血や若者の献血への参加を促す。これらのパンフレットをクリアファイルとセットにすることで、家庭に持ち帰った際、保護者の目にも触れ、さらに幅広い世代への啓発効果を期待する。

【2予定内容】 知事呼びかけメッセージ、貧血の予防と改善についての栄養アドバイス、「献血」についての状況、献血ルームの案内等を載せたパンフレット

【3実施予定日】平成28年10月配布予定

【4対象者】県内の高校3年生他

【5昨年度作成部数】 パンフレット 30,000部 クリアファイル 30,000枚

【6実施手順】 8月初旬 内容検討・図案作成、作成伺い
8月中旬 業者決定、作成
10月中旬まで 県内各高等学校(県立、市立、私立、特別支援学校)へ配布し、関係機関へ周知

【7予算額】 パンフレット印刷費 150,000円(30,000部) クリアファイル印刷費 720,000円(30,000枚)

【8効果】 18歳から男女とも全ての種類の献血が可能であるため、学校で配布することにより、ほぼすべての18歳に確実に行き渡るとともに、幅広い世代への啓発効果も期待できる。
また、栄養アドバイスにより体質改善と、献血の必要性、将来の血液不足の状況を知ってもらい、献血参加の促進を期待する。

【9実施に向けた課題】 配布後の効果や実績を検証しにくい、今後献血への参加の誘導方法を検討する。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (広島県)「夏休み血液センター見学会『なるほど献血教室』」1/2

「なるほど献血教室」は若年層、特に小学生高学年を主たる対象として、血液のはたらきを知るとともに、血液センターの役割や献血に興味をもたせることを目的として、毎年7月下旬から8月上旬に実施している。

【1目的】 深刻化する若年層献血者減少対策としての将来的献血者の育成と献血思想の普及。

【2予定内容】映像学習 3D映像などで血液のこと、献血のことを学ぶ。
血液センター見学 血液を検査・調製するところ、緊急車・献血バスなどを見学。
クイズ 映像や見学で学習した内容を、楽しい○×クイズで確認。
質問コーナー・感想文

【3実施日・場所(予定)】平成28年7月26日(火)～8月3日(水)

1回目 9:30～11:30 2回目 13:00～15:00

【4対象者】中四国ブロック赤十字血液センター・広島県赤十字血液センター合同社屋

1階 赤十字プラザ 3階・5階 製剤・検査工程見学コース

主として広島県内の小学校4～6年生

【5昨年度実績】参加者数9日間 合計 515名(児童〈幼児含〉:312名、保護者:203名)



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （広島県）「夏休み血液センター見学会『なるほど献血教室』」2/2

- 【6実施手順】 4月 概要を決定し、広島市に共催依頼、県教委市教委に後援依頼
5月 広島市の広報誌に募集記事の掲載を依頼
6月 広報チラシを作成し、教育委員会を通じて県内全小学校と広島市内および近隣町の小学4～5年全員にチラシを配付して参加者を募集
広島県赤十字血液センターのHP、FB複数回メール会員等にて参加者募集
- 【7予算額】 なし（広島県赤十字血液センターの予算にて実施）
経費：約14.2万円（内訳：チラシ作成64,800円 参加記念品31,200円
参加者処遇品34,224円 チラシ送料等11,600円）
- 【8目標（効果）】 参加者によるアンケートを実施し、献血への肯定的な反応を80%以上得ること。
同伴の保護者についても献血への理解促進を図り、献血ルームへの誘導までを目指す。
- 【9実施に向けた課題】
より多くの層の参加を促す為、従来対応していなかった土曜日もしくは日曜日に開催することを検討。また、学習要領では小学6年生で血液について学習するので、主たる対象を小学4～5年生から5～6年生とする。具体的には広島市および近隣町の小学5～6年生全員を開催チラシ配布の対象とする。
説明ボランティア育成に関する研修・育成プログラムの作成。

【平成28年度に実施予定の献血推進事業】 （広島県）「はたちの献血」キャンペーン用チラシ作成

【1目的】 はたちの献血キャンペーンに際し、市町が実施する成人式の式典等において、チラシを新成人等に配布し、献血の普及啓発を図る。

【2予定内容】 まひろちゃんのお父さんの手記や輸血を受けた方の声を紹介し、献血の現状等献血の啓発活動につながる内容

【3配布予定日】平成28年12月初旬

【4対象者】 県内の主に新成人

【5昨年度作成部数】 20,000枚

【6実施手順】 10月下旬 キャンペーン用チラシ内容検討・図案作成, 作成伺い
11月初旬 印刷業者決定, 作成
12月初旬 県内各市町及び関係機関へ配布し, 周知

【7予算額】 印刷費 64,000円(20,000枚)

【8効果】 市町が実施する成人式の式典等までに配布するので、式典等で新成人に行き渡るとともに、献血の状況を理解してもらい啓発効果を期待する。

【9実施に向けた課題】 昨年度は配布後の効果や実績が検証しにくいといった課題があったが、今年度はSNSでの広報により啓発活動を図る。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （山口県）高校生献血推進ボランティア育成事業

「高校生献血推進ボランティア育成事業」は、高校生献血推進ボランティアが文化祭や地域イベント等の場を活用し、次代の献血を担う同世代の高校生に対して、「献血」の必要性を訴えることにより、献血への理解と関心を深めることを目的として実施している。

【1目的】高校生献血推進ボランティアが文化祭や地域イベント等の場を活用し、次代の献血を担う同世代の高校生に対して、「献血」の必要性を訴えることにより、献血への理解と関心を深めることを目的としている。

【2内容】献血セミナー。DVD「アンパンマンのエキス」放映。パネル・ポスター展示。
献血クイズの実施。献血アンケートの実施、献血の実施。

【3実施日・場所】平成27年5月～平成28年2月 高等学校等

【4対象者】 高校生



【5実施手順】 5月に教育庁を通じ、実施依頼。各健康福祉センターが高等学校に直接実施協力依頼。6月～各高等学校から実施計画書提出。献血への理解が得られた高等学校では献血も実施。

【6実施に際して苦労したこと】 実施日の重複による啓発資材の調整。

【7予算額】なし

【8来場者】32高等学校で実施。うち、17校で献血も実施。

【9効果（評価）】各高等学校からの実施報告書によると、生徒のみでなく、幅広い年齢層に対しての啓発にもなっているという意見があった。ボランティアに参加した生徒からは自分もアンパンマンのエキスを持っているので、献血に参加して困っている人の役に立ちたいという感想があった。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】開催通知時期の検討

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】高校献血につなげることのできる事業の実施



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （山口県）献血啓発ポスター・作文の募集

- 【1目的】人間尊重と相互扶助の精神を基本理念とした献血意識の普及啓発を図るため、中、高校生から献血推進ポスター及び作文を募集する
- 【2内容】(1) 作文の部 本文は、400字詰め原稿用紙3枚以内とすること。
(2) ポスターの部 用紙の大きさは、B3(364mm×515mm)でタテ型
- 【3実施日・場所】募集期間6月～9月
- 【4対象者】中学生・高校生
- 【5実施手順】各中学校、高等学校、高等専門学校、特別支援学校に募集依頼
- 【6実施に際して苦労したこと】献血に関心を持ち、多数の応募をしていただくこと
- 【7予算額】76,000円
- 【8来場者】12月中旬に、表彰式、発表会を開催
- 【9効果(評価)】若年者の献血思想の普及啓発に効果があった。



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （山口県）高校生献血推進ボランティア育成事業

「高校生献血推進ボランティア育成事業」は、高校生献血推進ボランティアが文化祭や地域イベント等の場を活用し、次代の献血を担う同世代の高校生に対して、「献血」の必要性を訴えることにより、献血への理解と関心を深めることを目的として実施している。

【1目的】高校生献血推進ボランティアが文化祭や地域イベント等の場を活用し、次代の献血を担う同世代の高校生に対して、「献血」の必要性を訴えることにより、献血への理解と関心を深めることを目的としている。

【2予定内容】献血セミナー。DVD「アンパンマンのエクス」放映。パネル・ポスター展示。献血クイズの実施。献血アンケートの実施、献血の実施。

【3実施日・場所(予定)】平成28年度 高等学校等

【4対象者】 高校生、一般

【5昨年度実績】32校で実施。17校で献血も実施。

【6実施手順】 教育庁を通じ、実施依頼。各健康福祉センターが高等学校に直接実施協力依頼。6月～各高等学校から実施計画書提出。献血への理解が得られた高等学校では献血も実施。

【7予算額】なし

【8目標(効果)】昨年度17校であった高校献血を20校にする。
若年者の献血率の向上。

【9実施に向けた課題】啓発資材の工夫等



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （徳島県）スポーツイベントを活用した献血啓発①

【1 目的】スポーツイベントを通じて子育て中の世代を中心に血液の大切さや助け合いの心について啓発する。

【2 内容】親子向けの啓発を行い、親子で献血に触れ合う機会を促すため、ブースを設け、献血に関する理解を深めるため、パネル展示。徳島ヴォルティスサポーターに啓発資材を配布し、啓発。

徳島県献血推進イメージキャラクターの上野優華さんと献血キャラクター「けんけつちゃん」による啓発。

【3 実施日・場所】

6月7日（アスティとくしま）

【4 対象者】徳島ヴォルティス ファン感謝祭来場者



【5 来場者】1,000名

【6 効果（評価）】球団のご協力により作成したコラボレーション啓発資材を配布し、また今年度から徳島県献血推進イメージキャラクターに就任した上野優華さんから若年層及び子育て中の世代に向けた普及啓発を行い、効果があった。

【7 改善点】啓発資材の作成数量の把握が難しいため、活用方法を検討する必要がある。

【8 今後の課題】球団及び芸能プロダクションの協力が必要なため、良好な関係づくりが必要。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (徳島県)スポーツイベントを活用した献血啓発①



行こう！献血へ
誰かの命につながりますように



その一歩を応援してくれる人へ
上野優華



徳島県献血推進イメージキャラクター
上野優華

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （徳島県）愛の血液助け合い運動（7/1～7/31）

【1 目的】夏季は、長期休暇等により、学校や企業、団体などから献血への協力が得にくくなることからこの時季の献血者を確保するため、広く県民に対し、献血への理解と協力を呼びかける。

【2 内容】若年層や子育て中の世代を中心に献血の啓発を行うとともに献血に触れ合う機会を促すため、量販店の店内で啓発用うちわ、啓発用ティッシュを配布し、啓発。

徳島インディゴソックス選手及びチームキャラクター「Mr. インディー」、献血キャラクター「けんけつちゃん」による啓発

また、会場に献血バスを配車し、献血者に記念品等を配布。

【3 実施日・場所】

7月19日（ゆめタウン徳島）

【4 対象者】来場者

【5 効果（評価）】球団の選手及びチームキャラクターが啓発資材を配布し、若年層及び子育て中の世代に向けた普及啓発に効果があった。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (徳島県)愛の血液助け合い運動



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （徳島県）スポーツイベントを活用した献血啓発②

【1 目的】スポーツイベントを通じて子育て中の世代を中心に血液の大切さや助け合いの心について啓発する。

【2 内容】親子向けの啓発を行い、親子で献血に触れ合う機会を促すため、

①野球場で啓発用うちわ、啓発用ティッシュを配布し、啓発。

スタジアム内電光掲示板及び場内アナウンスによる献血の周知

献血キャラクター「けんけつちゃん」による啓発

②野球場で啓発用うちわ、啓発用ティッシュを配布し、啓発。

献血キャラクター「けんけつちゃん」による啓発

【3 実施日・場所】

①8月8日（JA徳島バンクスタジアム）

徳島インディゴソックス対香川オリーブガイナーズ

②9月6日（JA徳島バンクスタジアム）

徳島インディゴソックス対ソフトバンクホークス（3軍）

【4 対象者】試合の来場者



【5 来場者】①825名 ②640名

【6 効果（評価）】球団のご協力により作成したコラボレーション啓発資材を配布し、若年層及び子育て中の世代に向けた普及啓発に効果があった。

【7 改善点】啓発資材の作成数量の把握が難しいため、活用方法を検討する必要がある。

【8 今後の課題】球団の協力が必要なため、良好な関係づくりが必要。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (徳島県)スポーツイベントを活用した献血啓発②



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （徳島県）音楽を活用した献血啓発

【1 目的】音楽を通じて若年層を中心に血液の大切さや助け合いの心について啓発する。

【2 内容】若年層が献血に触れ合う機会を促すため、イベント会場に献血に係るパネル展示、トークショー及びコンサートを行い、同年代のアーティストが献血への呼びかけを行った。また、会場に献血バスを配車し、献血者に記念品等を配布。

【3 実施日・場所】

1月9日（フジグラン北島）

【4 対象者】

ショッピングセンターの来場者



【5 来場者】 370名

【6 効果（評価）】上野優華さんとエバラ健太さんのコラボイベントを開催することにより、若年層を中心に効果があった。

【7 改善点】キャンペーンイベント限定での記念品を検討する必要がある。

【8 今後の課題】作成した音楽を活用した新たな啓発手法を検討する必要がある。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (徳島県)音楽を活用した献血啓発



エバラ健太



トークイベント



上野優華



コラボライブ

徳島県献血推進イメージソング

<http://www.pref.tokushima.jp/docs/2015072700176/>



献血受付



パネル展示



献血バス



啓発資材



献血PR



エバラ健太ライブ



上野優華ライブ



献血トークショー



コラボライブ

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （香川県）高校生街頭献血キャンペーン

【1目的】献血可能年齢に達する高校生に献血ボランティア活動を通して、献血への理解を深めてもらうことにより、次代の献血者の底辺拡大を図り、血液を安定的に確保していくことを目的とする。

【2内容】血液に関する学習を受講後、街頭（夏：献血ルーム前、冬：ショッピングセンター）での献血呼びかけボランティアを体験してもらう。

【3実施日・場所】夏：平成27年8月22日（土）献血ルーム「オリーブ」前
冬：平成28年2月7日（日）イオンモール綾川

【4対象者】高校生



【5実施手順】（募集）①県血液センター、（献血バスを配車する店舗の場合）店舗と調整。②各保健所から管内の高校にキャンペーンの案内文を発出し参加を要請。

③取りまとめ、人数分のボランティア保険に加入。プレスリリース（当日）①会議室等で献血に関するDVD視聴と献血に関する学習。

②献血の呼びかけボランティアを行う。③アンケートに回答してもらい、ボランティア参加証明書を交付。



【6実施に際して苦労したこと】（冬）において店舗から、パーティションの設置高さや呼びかけ場所の範囲指定を受け、配置等に気を遣った。

【7予算額】（実績）（県）5,991円（ボランティア保険）、（血液センター）19,440円（会議室使用、パーティションレンタル代）

【8来場者】（夏）6高校から27名の高校生が参加、（冬）7高校から43名の高校生が参加

【9効果（評価）】アンケート結果では、参加した高校生の約9割が「献血の必要性への理解が深まった」、全員が「今後献血をしようと思う」と回答し、若年層における献血の理解が深まった。当日の献血者数も増加した。

【10問題点】（冬）においては応募者が予想を上回り2部構成になったことから、献血の呼びかけ時間が短めとなった。

【11今後の対応方針】今回に引き続き、島しょ部や県西部からも参加していただけるような場所を選定する。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （香川県）高校生献血セミナー

【1目的】少子高齢社会の進行等に伴い、献血可能人口が減少する中、将来の血液事業を担う若年層の献血への理解を深めるため、学校教育の一環として、献血についての正しい知識の普及啓発を行うとともに、奉仕・助け合いの精神を育成することを目的とする。

【2予定内容】香川県赤十字血液センターの職員等が、学校からの要望に応じて高等学校に出向き、講義を行う。

講義時間は、学校のスケジュールに合わせて、10分間～1時間で柔軟に対応する。

【3実施日・場所（予定）】通年。実施日は希望する高校と日程調整の上決定する。場所は各高校。

【4対象者】高校生及び教員

【5昨年度実績】6高校にて実施。受講者は計1,352名

【6実施手順】①各保健所から管内の高校に献血セミナーの案内文を発出。発出に併せ、保健所職員が赤十字血液センター職員とともに当該高校を訪問し、セミナー受入れと「献血セミナー希望調書」の回答を依頼。③希望調書に記載された希望日時をもとに実施日時を調整、実施。

【7予算額】（県）なし、（血液センター）270,000円（啓発用資料及びグッズ）

【8目標（効果）】12高校以上で実施

【9実施に向けた課題】希望調書は、献血セミナーの受け入れを希望しない場合においても希望しない理由を記入してもらうこととする。希望しない理由を把握し、次の普及啓発につなげていきたい。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (愛媛県)愛顔の高校生献血推進会議

【1目的】高校生を対象に、献血に関する意見交換、グループワーク及び献血現場の見学を実施し、献血への理解を深めてもらう。

【2内容】献血啓発DVD上映(話題提供)、班別グループワーク及び献血ルーム見学、班別発表
＜グループワーク＞

「みんなも献血にチャレンジ！」メッセージカードを作ろう！！

献血ルームの「いいね！」を紹介しよう♪

【3実施日・場所】平成27年8月11日(火)13:10～16:00

二番町ホール(貸し会議室)、大街道献血ルーム

【4対象者】県内の高校生、学生献血推進協議会(大学生)等



【5実施手順】6月に教育委員会への後援依頼及び各高等学校への開催案内。夏休み前に事前学習資料及びグループワーク資料を送付。参加者に対する傷害保険に加入。

【6実施に際して苦労したこと】献血ルームから徒歩圏内の会場を探す必要がある。

【7予算額】75千円(参加者旅費、消耗品費、会場借上料等)

【8来場者】高校生43名、引率教員13名、大学生6名が参加

【9効果(評価)】若年層への普及啓発、啓発素材としての活用

【10改善点(又は問題点又は反省点)】参加者が多く、また、2グループに分かれるため、進行の把握、調整が難しい。
グループワークを1つに絞ることを検討。

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】

高校生が作成した成果物を各高等学校に持ち帰り、各校で啓発してもらうための仕掛けが必要。



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （愛媛県）小学生親子血液センター見学体験教室

【1目的】小学生とその保護者を対象に、血液のはたらきや血液センターの役割を知ってもらい、献血に興味をもってもらうとともに、小学生の夏休みの宿題（自由研究等）を応援する。

【2予定内容】愛媛県赤十字血液センターの見学（献血バス、血液搬送車等）
スライドやDVDを活用した学習、病院での輸血現場の見学 等

【3実施日・場所（予定）】夏休み（7～8月）に4日間の予定
愛媛県赤十字血液センター、松山赤十字病院

【4対象者】小学校5～6年生及びその保護者。各日10～15組100名程度

【5昨年度実績】4日間で児童48名、保護者47名（合計95名）参加

【6実施手順】血液センターと県との共催、教育委員会の後援を得て実施する。
7月に参加者を募集する。イベント当日はバス等で血液センター～病院を移動する。

【7予算額】なし（血液センターの事業予算で対応。）

【8目標（効果）】小学生に献血の重要性を理解してもらい、将来高校生になった時に献血をする動機づけを期待する。また、保護者の献血協力につなげる。

【9実施に向けた課題】病院での患者さんへの配慮



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (高知県)けんけつ啓発イベント・デザインコンテスト2015

- 若年層の献血に対する関心を高める啓発事業として実施 <平成26年度からの事業で2回目>
- 主催: 高知県、高知県赤十字血液センター、日本赤十字社高知県支部

【1 目的】

- ①コンテスト: 応募をきっかけに若者の献血への理解を深める
- ②イベント: 若い世代からのメッセージ発信により、若年層を含む広く県民に対して献血を啓発

【2 内容】

テーマ「高知で若い世代に献血をアピール」
⇒ 冬季献血イベントで実施する企画・デザインを募集し、最優秀企画を実現

【3 実施日・場所】

募集期間: 平成27年5月～6月、書類審査: 7月、最終審査(プレゼン): 8月、表彰式: 8月
企画実現: 「はたちの献血」イベントとコラボ <平成28年1月17日 イオンモール高知>

【4 対象者】

コンテスト: 県内在住または出身の16～29歳
イベント: 若年層を含む広く県民に啓発

【5 予算額】

約100万円(イベント会場代含)



【6 実施手順・内容】

- ・応募9点→5企画に賞を授与<審査員:県内デザイナー、学生献血クロス倶楽部メンバー等>
⇒ 最優秀企画<企画:「スッキリ、ぽかぽかけんけつ」企画者:県内専門学校2年生>
イベント内容:専門学生による手湯の紹介、ハンドマッサージコーナーや各種ステージでの催しを行いながら、学生のボランティアが同世代に向けて献血を呼びかけ
- ・9月~12月:各種コーナーやステージでの内容の検討、調整
- ・11月:県内高校・専門学校を対象に学生ボランティアを募集⇒計34名に事前研修会(3回実施)
- ・1月:イベントとして企画実現

【7 効果(評価)】

- ・企画募集から実現まで、学生や学校側と連携調整するなかで、献血への理解を一層深める効果があった
- ・26年度に引き続いて参加する学生ボランティアもあり、献血の思想の普及効果があった
- ・イベント当日献血受付85名、献血者数69名
通常の同場所での献血者数の70%増

【8 改善点】

- <コンテストに関して>
 - ・応募者の確保、効果的な広報活動の検討
(学校での年間スケジュールとの兼ね合い等)
 - ・学生以外の層への広報活動の工夫
- <イベント実施に関して>
 - ・提案内容と実現可能性との折り合いの工夫

【9 今後の対応方針】

コンテスト募集内容の見直しを行い、より多くの方に献血への理解が得られる形を検討していく



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （高知県）若年層への献血啓発に関する事業

けんけつ啓発イベント・デザインコンテスト2016

【1目的、2予定内容、3実施日・場所（予定）、4対象者】

昨年度とほぼ同様

【5昨年度実績】

- ①コンテスト：応募総数9企画、受賞5企画、実現1企画
- ②企画実現：学生ボランティア応募34名、研修会3回、イベント1日

【6実施手順】

募集期間：平成28年5月～6月頃、審査：7月～8月頃、企画実現：冬季

【7予算額】

約100万円（イベント会場代含む）

【8目標（効果）】

- ①学校現場での献血への理解促進 ②企画実現による若年層への啓発

【9実施に向けた課題】

- ①学校現場での献血への理解促進 ②学生以外の層への広報活動